

まもるがかり

特集

安全で質の高い医療を提供する

「チーム医療」第1弾

いると安心!かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と
獨協医科大学 埼玉医療センターとの連携

部門紹介

総合患者支援センター

各部門・相談窓口のご紹介



安全で質の高い医療を提供する 「チーム医療」 第1弾



医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に互いに連携し合い、患者さんの状況に応じた医療を提供する「チーム医療」。当院では現在、14の専門チームが診療を支援しています。本特集では、各チームの特徴や取り組みについて、番号にわたってご紹介します。

医療安全管理チーム・褥瘡対策チーム・認知症ケアチーム・緩和ケアチーム・精神科リエゾンチーム・呼吸サポートチーム・骨粗鬆症リエゾンチーム・報告書確認対策チーム・感染制御チーム・抗菌薬適正使用支援チーム・栄養サポートチーム・血糖コントロールチーム・身体的拘束最小化チーム・排尿ケアチーム

医療安全管理チーム



上：医療安全管理ラウンド
左：カンファレンス

多方面から事故の原因を探り、再発予防を目指す

患者さんが安心して医療を受けられるよう、医療事故の予防と対策に努めています。主に力を入れているのが、医療事故が発生したケースと、重大な事態になりかけたケースの情報収集と原因分析、それを踏まえた予防策の立案と院内周知です。事象の問題点を探るには、多方面からの視点が欠かせません。そこで異なる部署や職種が連携し、安全管理に取り組んでいます。不幸にも医療事故が発生した場合には、患者さんやそのご家族にきちんと説明するだけでなく、再発予防策やその後の経過についても報告するなどして、地域社会の信頼に応える基幹病院を目指します。

おもな活動内容

- ◆ 医療事故報告の管理、統計処理、原因究明
- ◆ 医療事故発生時の対応と再発防止策の検討、院内周知
- ◆ 業務改善に向けた提案、指導 他



医師
吉富 秀幸

認知症ケアチーム



上：医師、看護師による回診
左：カンファレンス

認知機能の低下や悪化を予防し、安全な入院生活を支援

認知症の患者さんが、安心して身体疾患の治療を受けられるよう支援しています。見当識が低下すると自分の居場所がわからなくなる上、入院による環境の変化でさらに混乱し不安な状態になりがちです。複数の領域にまたがったケアが必要となるため、医師や看護師、メディカルソーシャルワーカーがチームを組み、患者さんの困りごとの解決を目指しています。当院は急性期病院であることから、身体疾患の治療が終われば退院となります。自宅や施設に移っても、安心して暮らせるようにするのが私たちの使命です。必要な情報を提供し、退院後を見据えた支援にも努めてまいります。

おもな活動内容

- ◆ 認知症の患者さんが安心して入院生活を送れるよう支援
- ◆ 病棟での認知症ケアについて提案
- ◆ 院内で定期的に研修や勉強会を企画、実施 他



認知症看護認定看護師
高村 香織

褥瘡対策チーム



上：医師、看護師による回診
左：カンファレンス

褥瘡対策マニュアルを改訂し、院内で知識の底上げを目指す

医師と皮膚・排泄ケア特定看護師が中心となり、患者さんの褥瘡予防とケアに取り組んでいます。入院時に褥瘡のある患者さんや、入院してから褥瘡が発生した患者さんには回診をおこない、早期改善に向けたケア内容を検討。また、寝たきり状態などで重点的なケアが必要な患者さんには、病棟単位でカンファレンスを実施し予防に努めています。褥瘡は複合的な要因で発症するものです。患者さんを全人的に見る必要があるため、多職種と連携して活動しています。最近では褥瘡のある患者さんの入院が増えています。院内全体で適した対応ができるよう、知識の底上げを目指しています。

おもな活動内容

- ◆ 褥瘡のある患者さんを回診、創部を評価
- ◆ 褥瘡対策カンファレンスを実施（週1回）
- ◆ 院内教育と患者さんへの指導 他



皮膚・排泄ケア特定看護師
太内田 房子

緩和ケアチーム



上：緩和ケアチームカンファレンス
左：カンファレンス

がんと診断されたときから緩和ケアに入り、治療の継続に尽力

私たちはがんに伴う心身のつらさを緩和する専門チームです。医師や看護師、薬剤師などの多職種が協働し、つらい症状を和らげるための治療・ケアを提案しています。体のつらい症状によって不安や落ち込みが強くなると、やがて治療の継続に影響を及ぼします。そのため適切な薬を用いてさまざまな苦痛を軽減し、できるだけ安心してがんの治療を継続できるようにすることが重要です。地域でも市民公開講座などを企画し、緩和ケアの正しい知識の普及啓発に努めています。私たちは心の診療窓口です。心身のつらさを抱えている方は、ぜひお気軽にご相談ください。

おもな活動内容

- ◆ 疼痛や倦怠感といった身体的症状のマネジメント
- ◆ 不安や抑うつといった精神的症状のマネジメント
- ◆ 市民公開講座や地域連携合同カンファレンスなどの開催 他



医師
中根 えりな

いると安心! かかりつけ医

お近くのクリニックや診療所と
獨協医科大学 埼玉医療センターとの連携



“かかりつけ医”は、日頃の診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんのことです。

ちょっとした症状が気になるときや、健康診断で異常な数値が出たときなどに大変頼りになる存在です。

獨協医科大学 埼玉医療センターは、かかりつけ医と連携しながら、地域住民の皆さんの健康をお守り

しています。それぞれの特長や役割を理解して、上手に活用しましょう。

かかりつけ医(クリニックや診療所など)

あなたのことを良く知っていて、いざという時により大きな病院を紹介してくれます。日ごろから気軽に相談できる“かかりつけ医”を持つことが安心につながります。



患者さん



獨協医科大学 埼玉医療センター

治療が難しい病気でも、高い技術を持った専門医が診療にあたります。まずは、かかりつけ医から紹介状を発行してもらい、診察の予約を取ってください。



通常診療

特長

じっくり診察してくれる。
日常の健康管理についてアドバイスをくれる。
検査・手術などが必要なとき、適切な病院を紹介してくれる。

それぞれの特長を理解しよう



かかりつけ医に
受診

専門的な検査、手術、治療

特長

重篤な患者さんに対して検査、手術を提供してくれる。
かかりつけ医と連携して、より良い治療方針を提案してくれる。

ちょっと
お腹が痛くて...



Aさんをご紹介しますので
お願いします

大学病院へ
ご紹介

分かりました!

紹介元のかかりつけ医へ
ご報告

なるほど、
では...

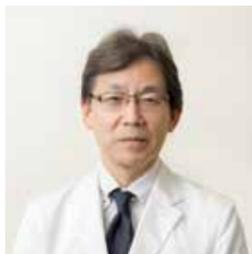
Aさんの
治療は...



部門紹介

総合患者支援センター

各部門・相談窓口のご紹介



総合患者支援センター長
総合診療科 教授
齋藤 登

総合患者支援センターでは、医療連携部門、医療福祉相談部門、入退院支援部門、在宅医療部門及びクリニカルパス推進部門を設置しており、当院と地域医療機関との密接な連携、患者さんやご家族からの相談に適切に応じられる体制の確保、患者サービスの充実と推進並びに患者さんのかかえる様々な問題の解決を医療・保健・福祉の有機的連携により進めるため、相手の立場に立ってその機能を果たしています。

各部門・相談窓口の紹介

総合患者支援センターでは、以下のような部門、相談窓口を設け、地域医療機関・施設との連携や患者さん・ご家族の様々なご相談に対応しています。

医療福祉相談部門

専門の医療ソーシャルワーカーが心理的・社会的な問題に対する解決・調整援助、社会復帰に対する援助、経済問題に対する解決・調整援助等の相談を受け付けております。

医療連携部門

近隣の医療機関（かかりつけ医）からご紹介いただいた患者さんに対し、診療予約取得のお手伝い、その診療結果を紹介元に報告するといった業務を行っています。

入退院支援部門

入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決や退院後の支援に向けて早期に着手し、退院調整及び在宅生活をサポートいたします。

在宅医療部門

入院患者さんや通院患者さんを対象に、自宅で治療が受けられるように訪問診療や訪問看護においてサポートいたします。



クリニカルパス推進部門

クリニカルパス（病気ごとに治療や検査、看護ケアなどの内容及び診療計画を一覧できる形式にまとめたもの）を用いた診療をお受けになるための様々な運用支援を行います。

がん相談支援センター

総合がん診療センターと連携し、がん患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談をお受けします。

難病相談窓口

難病患者さんの療養上の心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

脳卒中相談窓口

当院にかかりつけの脳卒中患者さんの心理・社会・経済的な相談、地域機関からの受診相談をお受けします。

患者相談窓口

どこに相談していいかわからない内容や当院・医療従事者に対するご相談、ご意見を伺います。

PFMシステム

当院では入退院支援部門の中に患者支援窓口を設け、PFMシステムを導入しております。PFMとは（Patient Flow Management）の略です。入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、一人ひとりの状況を身体的、社会的、精神的背景からしっかりと把握し、入退院に関する多職種が連携して入院中はもちろん、退院後も含めた一貫した支援を目指しています。

受診の流れ

初めて当センターを受診される方は、下記の流れをご確認のうえ、ご予約をお取りください。

① FAXもしくはWebにて診療予約を受け付け

地域の医療機関から診療予約の連絡を受ける。
※医療機関からではなく、患者さん本人もしくはご家族からの予約連絡も受け付けています。その場合はお手元に紹介状（開封不可）をご準備のうえ、以下のURLよりお申し込みください。

② 診療予約票を発行

紹介元の医療機関に診療予約票をFAXしますのでお受け取りください。
※患者さん本人もしくはご家族からのWeb予約の場合は、メールでご案内します。

③ 診療予約日に受診

紹介状、保険証、診療予約票をご持参ください。
※当センター受診券（カード）をお持ちの方は一緒にご持参ください。



Web予約 URL: <https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/online-reservation/>



<お願い>

まず地域の医療機関を受診し、専門的な診療が必要と判断され、当センターの受診を紹介されることが一般的な流れです。当センターでの診療を終え、いったん地域の医療機関に戻られた後、改めて紹介されて受診する場合にも同様に、地域の医療機関で当センター宛の紹介状をもらってください。予約を取る際は当センター宛の紹介状をお手元にご用意ください。



連絡先 総合患者支援センター医療連携部門

業務時間 (病院休診日を除く) 平日、土曜日(第3週を除く) 午前8時30分～午後4時30分

連絡先 TEL 048-965-1147 (直通)

※紹介状をお手元にご準備の上、ご連絡をお願いします。

▶ 次号予告 第9号 2026年5月発行予定

安全で質の高い医療を提供する「チーム医療」第2弾

今回の取材で見えてきたチーム医療の重要性。次号では精神科リエゾンチーム・呼吸サポートチーム・骨粗鬆症リエゾンチーム・報告書確認対策チームにインタビューし、当院におけるチーム医療の在り方について、さらに深掘りしていきます。

※内容は変更になる場合がございます。

獨協医科大学 埼玉医療センター 地域連携広報誌

まもるがかり

発行 獨協医科大学 埼玉医療センター
〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50
TEL: 048-965-1111(代) 048-965-1147(総合患者支援センター)
<https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-s/>
制作 株式会社メディア・プラン <http://www.media-plan-tokyo.co.jp/>

命を守り、 命を輝かせる



理念

常に研鑽し患者の信頼にこたえる

病院概要

■開設年月 昭和59年6月

■許可病床数 928床

■診療科名 糖尿病内分泌・血液内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、放射線科、総合診療科、外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、救急医療科、麻酔科、集中治療科、こころの診療科、皮膚科、リハビリテーション科

■診療受付時間 午前8時30分～11時00分
(但し、小児科、形成外科については
午前8時30分～10時30分)

■休診日 日曜、祝日、第3土曜日、開学記念日(4月23日)、
年末年始(12月29日～1月3日)

アクセス

東武スカイツリーライン 新越谷駅下車徒歩3分
JR武蔵野線 南越谷駅下車徒歩3分



 獨協医科大学 埼玉医療センター
Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 TEL: 048-965-1111(代)

